

○薬剤耐性菌に関するワーキンググループ（第56回）（公開）

日時：令和6年12月4日（水）14：00～16：27

議事概要：

- （1）ホスホマイシンナトリウムを有効成分とする牛の注射剤（動物用ホスミシンS（静注用））の再審査に係る薬剤耐性菌に関する食品健康影響評価について

審議の結果、

○評価対象ホスホマイシンが、動物用医薬品として牛に使用された結果としてハザードである腸管出血性大腸菌又は大腸菌が選択され、牛由来の畜産食品を介して人がハザードにばく露され、人用抗菌性物質による治療効果が減弱又は喪失する可能性は否定できないが、腸管出血性大腸菌又は大腸菌についてリスクの程度は低度であると考えた。

○薬剤耐性菌については、現時点では詳細な科学的知見や情報が必ずしも十分とはいえ、リスク評価の手法についても最新の知見を踏まえた見直しを随時行うことが重要と考えるため、国際機関における検討状況等を含め新たな科学的知見・情報の収集が必要である。

とすることが了承され、評価書(案)を一部修正の上、食品安全委員会に報告することとなった。

* 動物用医薬品として牛のパスツレラ性肺炎の治療薬として使用されていません。

- （2）「食品を介して人の健康に影響を及ぼす細菌に対する抗菌性物質の重要度のランク付け」の改正の検討について

審議の結果、改正案について了承され、一部修正の上、改正案を食品安全委員会に報告することとされた。